道場から大岩岳・丸山湿原を歩く

第 122 回武庫川エコハイク

2017.6.10 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km^2、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の東側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22（2010）年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR 道場駅 阪鶴鉄道が三田まで開通した明治 32 年(1899)に開設された。千苅水源池、鎌倉峡、百丈岩ハイキングの玄関口。

富士チタン工業（株）神戸工場 石原産業（株）の 100%子会社。神戸工場では酸化チタンの製造をしている。同社の酸化チタンは繊維用艶消し剤（シェア 60%）、カード用PETフィルム白色顔料に使われている。（同社ホームページより）

近畿自然歩道（道場駅～千苅湖畔西岸～宝塚市西谷支所） 山陽路ルートの一つ。千苅ダム南部で土砂崩壊のため通行止め。

神戸層群 道場駅から下流の武庫川本川、羽束川の下流では神戸層群の河床がみられる。500 万年前この辺りは古神戸湖の湖底に当たり、細かい粘土層（シルト）が堆積していた。

羽束川（はつかがわ） 武庫川最大の支流で、源流は大阪府能勢町天王の深山（みやま、標高 791m）。途中篠山市篭坊温泉、後川（しつかわ）、三田市高平を経て宝塚市波豆で波豆川を合流して千苅水源地に注ぐ。武庫川には武庫川峡谷の直上流の神戸市道場で合流する。流域面積 95 千 km2（武庫川流域の 19%）、長さ 32km、高低差 360m で武庫川本流よりも勾配が大きい。「羽束」は「波都加之（はづかし）」から出、「泥部（はづかしべ、石の職人）」の住む所という説がある。「波豆」の語源も同意と考えられる。このあたり北摂最高の石造物の宝庫であることからうなずけないこともない。

不動岩 ロッククライミングのメッカ。凝灰岩。

千苅浄水場 神戸市北区の開発や住宅団地の建設などによる人口の増加にあわせて、千苅水源地を水源として、昭和 42（1967）年 3 月に創設された北神水道の浄水場。面積 20,000m^2、1 日当たり浄水能力 108,000m^3、太陽光発電（95kw）、水力発電（180kw）にも注力して浄水場使用電力の約 8%を賄い環境にも配慮している。

東山橋 羽束川最下流の橋。武庫川合流点が望める。

千苅水源池 明治の初め、神戸市ではコレラが毎年のように流行し、この対策のため水道の必要性が増大し、明治 30(1887)年水道工事が開始され、30 年代に布引貯水池、奥平野浄水場、烏原貯水池が完成した。さらに大正 8(1919)年、千苅貯水池が完成した。池の面積 112 万 m^2（満水時）、貯水量 1,160 万 m^3、堰堤高さ 42m、同長さ 106m、池の周囲 23km。第 2 回拡張工事昭和 6 年（1931）堰堤嵩上げ工事完成。現在、神戸市水道の 13%を担っている。自然景観（一般）で’11 年レッドデータブックCランク）。（「宝塚市史」、「続羽束の郷土史誌」より）

大岩岳 千苅水源池の東側に位置する。北摂の山並みの展望が素晴らしい。標高 384m、二等三角点。

東大岩岳 大岩岳の東にある。大岩岳と千苅貯水池及び丸山などの展望が良い。

馬の背 東大岩岳を北に下ると馬の背がある。ツメレンゲの群生が見られる。

丸山湿原群 宝塚市境野にある**丸山（標高 328.4m）**の西側にある約 2800m2 に及ぶ湿原群の総称で付近には大小複数の湿原が点在している。最も面積の大きな湿原が通称「丸山第１湿原」と呼ぶ。湿原の面積、出現植物数、植物群落タイプ等からみても兵庫県一の湧水湿原である。丸山湿原付近一帯は、西谷地域でも特に荒地（ズリ）が多い。湿原集水域の山は、古くから地元集落の玉瀬・境野・大原野の共有財産（持山）として、また一部は、個人の山として管理・利用されてきた。これらの山は自家用の柴・マツタケ採集で利用され、特に良いマツタケ山であった。昭和 64（1989）年宝塚新都市開発構想を県が策定。平成 17（2005）年兵庫県が先行取得地里山林整備事業で遊歩道など工事開始。平成 18（2006）年「丸山湿原群保全の会」が発足、保全活動始まる。平成 20（2008）年地域住民の主導、行政の支援により、丸山湿原の保全、活用を推進する体制として「丸山湿原エコミュージアム推進協議会」が発足。兵庫県レッドデータブック A ランク。平成 26（2014）年宝塚市天然記念物に指定され、平成 27（2015）年兵庫県天然記念物に指定されている。兵庫県北摂里山博物館の一つ。

丸山湿原の成立ち 丸山湿原には大小 5 つの湿原があります。周辺の地質は中性代に堆積した有馬層群で、凝結凝灰岩と呼ばれる凝灰岩が広く分布している。当地の凝灰岩は風化しやすく、丸山湿原の各所には風化の進んだバッドランド地形のはげ山を多く見る。風化した土は非常に細かい粘土に近いシルトで、雨が降ると斜面下方へと流れ出して谷底を埋め、傾斜が緩やかでシルトからなる谷底には、水が停滞して湿潤な立地が形成されることになる。シルトの層の厚さは 1mになる。（案内板より）

丸山湿原の植物群落 湿原中央部の表土が見える湿潤な立地には、草丈の低いイヌノハナヒゲ群集が見られ、サギソウ、トキソウ、ミミカキグサ、ミカヅキグサ、モウセンゴケなどが群落の構成種となっている。一方、土砂の堆積した過湿な立地にはヌマガヤ群落が成立し、イヌノハナヒゲ群集の周辺部や湿原内部にパッチ上に分布し、カキランやミズギボウシ、サワヒヨドリなどの背丈の高い花が見られる。また、ヌマガヤ群落のさらに外側、湿原の周辺部には、オオミズゴケのほかアカマツやイソノキ、アリマコスズなどの木本類を多く含むイヌツゲ群落がみられる。（案内板より）

丸山湿原の生息動物 日本一小さいハッチョウトンボ、ヒメタイコウチなど湿原にだけ生息する生き物を見る。（案内板より）

丸山三角点 281.4m の三角点。

風吹岩 山塊が露出し異様な形に岩が散在する。